

資料 1

令和7年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書

1. 令和7年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書
1～ 3ページ
2. 令和7年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
4～26ページ

ホーム事業報告書（全体）	4～ 9
各家生活報告書（6ユニット）	10～21
医務室事業報告書	22～23
厨房事業報告書	24～26
3. 令和7年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
27～30ページ
4. 令和7年度 事務室事業報告書
31～32ページ
5. 令和7年度 研修報告（研修一覧）
33～35ページ
6. 令和7年度 施設内研修等一覧
36ページ

1. 基本方針

地域福祉に求められるニーズが、より多様化、個別化して行く中で、そのニーズに応えられるよう、できる範囲内で施設運営や居宅介護支援事業に反映してきた。

また、人材確保については、様々な情報提供と広報活動、人材紹介事業者や特定技能実習等の活用を検討、安定した基盤づくりのために取り組んできた。

(1) 地域貢献

- ・社宅の一部を「医師」に無償貸与

昼夜を問わず、地域医療・福祉に取り組んでいる本田医師に対し、活動拠点の居宅として提供。

(特に往診等においては、夜中であっても、早朝であっても、快く幾度も対応して頂きました。感謝しかありません。)

- ・施設内を交流の場として開放

村内の方との交流は叶わなかったものの、県立医科大学保健科学部作業療法学科生との交流を実施。

(実務研修等の提供や、災害時の経験について講話等をしてきた。)

(2) 職員の質の向上

- ・会議室や相談室を開放。

オンライン研修等を何時でも受けられるよう部屋を開放。

(常時、PC機器等が使用できるように設置)

- ・資格取得の支援の継続

資格取得に向け、自由に学習できる部屋を設けると共に、研修費用の支援や勤務シフトにも配慮。

- ・職員が気兼ねなく相談等ができる部屋(相談室)を設ける。

- ・自己研鑽のためのボランティア休暇を推進。

(3) 人材確保

- ・職員募集のPRを展開。

被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用。

(広報誌、各種封筒等に「応援職員募集」と印刷)

- ・ホームページの更新(適宜)

(施設内の情報等)

- ・インスタの発信(適宜)

(主に施設内でのイベント等)

- ・広報紙の年2回発行

(10月、3月に発行)

2. 事業内容について

・理事会、評議員会、監事監査、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年5回、評議員会年2回、監事監査年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6名、監事2名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和7年 5月26日	5	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の選任について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第10号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について
第2回	6月24日	6	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会業務執行理事の選任について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について
第3回	10月30日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第6号 日常費用支払代行費用の見直しについて
第4回	令和8年 1月26日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム休止許可申請について 議案第2号 老人居宅生活支援事業休止届について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会役員等の報酬に関する規程の一部変更について
第5回	3月25日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和7年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 令和8年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画（案）について 議案第3号 令和8年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算（案）について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第5号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について



(2) 評議員会の開催状況（定数7名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和7年 6月24日	6	1	議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について
臨時	11月10日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 

(3) 監事監査の開催状況（監事定数2名）

開催日	出席(名)	内 容
令和7年 5月9日	2	令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 令和6年度理事会及び評議員会の執行状況について
講 評		・事業報告の中で、一部、名前の訂正及び表現方法を統一して欲しい。 ・計算関係書類及び財産目録等は適正に行われている。 ・運営状況や会計等から見て、少しずつではあるが、前に進んでいると窺える。このことを理事や評議員の方へも助言して行きたい。 ・全体的には適正に処理されている旨の報告あり。 

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況（定数3名）

開催日	出席(名)	内 容
令和7年 6月13日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について
11月17日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

3. 役員研修等

本年度もオンライン研修が主となり集合しにくい面もあった。今後は集合研修も期待したい。

4. その他

法人経営の安定を目指し、人材の確保に努めてきた。

1. 基本方針

(1) 入居者のニーズに沿ったケアの提供、施設での生活が居心地の良いものとなるよう「質の向上」に努めてきた。

入居者と職員の信頼関係を大切に、また、清潔で安全な環境の中で、落ち着いた生活が送れるよう環境づくりに取り組んできた。このことから、自然と入居者同士の交流の場が開け、穏やかな日常生活に繋がっている。

(2) 4月からタブレット端末や介護ソフト、インカムを導入により、日々の支援記録がリアルタイムで入力できるようになった。また、様々な情報の共有が可能になったことで業務の効率化に繋がった。結果として、今まで課題だったケース入力の作業時間が短縮され、その分ケアに多くの時間を充てることができた。加えて、職員の動線や業務の改善にも繋がった。

(3) 本年度は、ホームでは5名の新規職員を迎え育成に取り組んできた。新規採用者に対しては、業務に必要な知識や技術の研修を段階的に行ってきた。また、先輩職員を交えた研修も継続的に行い、職員会議や専門会議でスキルの向上にも努めてきた。しかし、新規採用者を迎えた反面、永年勤続者の5名が退職し、業務体制に苦慮する場面が多々あった。

(4) 事業継続計画では、自然災害や感染症発生時における対応手順の周知徹底を図ってきた。特に初動対応や連絡体制、役割分担の確認を行い、危機管理意識の向上に繋げることができた。(机上訓練年各2回、演習年2回実施。特に演習では、二次災害時を踏まえ移送訓練も実施。同時にマニュアルの見直しも行ってきた。)



(避難訓練)



(移送及びケースファイル等受渡し)



(消火訓練)

(5) 職員の資質向上を目的に、身体拘束防止(年2回)、高齢者虐待防止(年2回)、リスクマネジメント(年2回)、認知症ケア(年1回)に関する各種研修を、職員会議で定期的実施した。これにより理解が深められ意識向上に繋がった。

2. 具体的な取り組み

(1) 入居状況

① 介護度区分状況(R8.3.31 現在)

性 別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
男 性	—	—	4	2	2	8
女 性	—	—	5	20	11	36
合 計	—	—	9	22	13	44

前年度に比べ、男性は若干増加し、要介護3～4の割合が増え、全介助を要する方も多くなってきている。また、認知症状を有している方が全体の9割以上占めている。

② 月別入退居状況（R7年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 所 者 数	2	1	1	1	2	1	0	0	2	1	1	1	13
退 所 者 数	0	2	1	1	0	2	1	2	1	1	0	1	12
月末入居者数	45	44	44	44	46	45	44	42	43	43	44	44	

（2）生活・環境面の充実

取 組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり （安らげる環境）	1－①「居場所づくり」のため、設え等に工夫してきた。また、心安らげる環境（居室やフロア等）づくりのため、入居者に合わせ家具やテレビを配置してきた。 ② 感染防止のため、整理整頓や消臭対策、共用部の清掃や除菌等に努め、更に食後のテーブルは除菌スプレーで対応してきた。
2. 生活リズムの維持	2－① 毎月ケア会議を開催。職員間でケアの均一化を図れるようにした。しかし、ケア会議で決定した翌日に体調変化が生じ、ケア内容の見直しが必要となることも稀ではなかった。
3. 家庭的な雰囲気づくり	3－① 一人ひとりの生活習慣、意向を尊重し、居心地の良くなる環境を整えてきたことから、西棟ホールに自ら集まり交流する方や、家内でゆっくりと寛ぎ過ごす方が増えてきた。 ② 個々の誕生日祝いを継続してきた。特に節目のお祝いを迎える方に対しては、賀寿の種類に沿った装いで記念撮影。（写真は家族の方にも提供してきた。）

・ 面会への取り組み（状況）

面会回数	0	1	2～5	6～10	11～20	21以上
入 居 者	3	7	11	16	3	4

面会コーナーを設け、対面での面会を可能にしてきた。このことから、お互いの声が聞こえ、会話も弾み入居者にも笑みが増えました。

面会回数は、多い方で年 28 回（定期的な面会や行事に合わせての面会）でした。また、連絡をしても都合により面会が叶わなかった方もあり、本人のためにもできるだけ連絡を取っていききたい。

（3）サービスの質の向上

（食事）

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせた食事	1－① 食べられるタイミングを見逃さず“好きなものを食べたい時に食べる”ことを目標に努めてきました。 ② 食事の嗜好、咀嚼、嚥下の現状を把握し、食事形態を選定。（常食、軟食、キザミ食、ペースト食、ゼリー食等に力を入れてきたが、疾患の進行等により嚥下が難しくなる方も増えてきました。） ③ 適正な水分の粘度調整や介助方法等、看護師・栄養士・調理職との連携で安全な食事介助に取り組んできました。
2. 口腔内の清潔保持	2－① 口腔ケア体操や会話を増やすことで、摂取機能の維持に努め、また、毎食後の口腔観察でトラブルの早期発見にも努めてきた。 ② 歯科医の往診（月 1 回）により、義歯調整や残歯の炎症等の治療が受けられ、また、医師指導の下、個々に合った口腔ケアができた。
3. 緊急時の対応	3－① 職員会議で、誤嚥や窒息のサインを見逃さないよう、緊急時の対処方法についての勉強会を行ってきた。

(排泄)

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせた排泄支援	1-① 個々の排泄量や時間を把握し排泄用品の選定を行ってきた。また、パットが改良されたことにより、そのパットを使用することで、排泄介助の回数が減らせ夜間帯の安眠確保に繋がった。
2. トイレ介助への移行	2-① 日々のケアでは排泄が中心となることが多いため、的確な排泄パターン等を把握、いかに快適に過ごして頂くかを話し合ってきた。
3. 皮膚の保護	3-① 陰部洗浄や清拭、ワセリン塗布等で皮膚トラブル防止に努めてきた。 ② 個々に合ったパットの選定等で蒸れ防止に努めてきた。

(入浴)

取 組	具体的な内容
1. 体調に合わせた入浴支援	1-① 男性の方や大柄な方が増えたことから、安全な移乗介助と職員の腰痛防止を図るため、リフト浴を使用してきた。 ② 状態によっては、福祉用具の活用や2人介助で対応をしてきた。 ③ 皮膚の状態によって、シャンプーやソープの種類の使い分けをしてきた。 ④ 入浴後は、全身にボディクリームを塗り皮膚の保湿に努めてきた。
2. 快適な入浴	2-① 湯温(38~40℃)や、浴室温度(23~25℃)を保ってきた。 ② 状態によりマンツーマン介助でゆったりとした入浴を提供。 ③ 季節に合わせた入浴を実施。(6月菖蒲湯、12月柚湯)

(自立支援)

生活にメリハリを持ち、“何か”をしてみたいとの自発性を大切に、役割を見出すことで精神面や自立感、達成感を味わって頂けるよう支援してきた。

取 組	具体的な内容
1. レクリエーションへの参加	1-① 毎朝8時にラジオ体操を放送することで、体の目覚めを促してきた。 ② 昼食前の口腔ケア体操で、嚥下機能の低下防止に繋げてきた。 ③ レク体操で身体機能維持や他者との交流を図ってきた。
2. 趣味や生きがいづくり	2-① クラブ活動等の実施。 ・ 手芸や貼り絵、塗り絵等、各家内で行ってきた。 ・ カラオケについては、西・北棟別に毎週日曜日に計画を立てていたが、参加できる方が少なく実施は難しかった。 ② 手芸等、作品は村文化祭へ出品。地域との繋がりを大切にしてきた。(本年度は七夕飾りを出品、飯舘村老人クラブ連合会長賞を受賞。)
3. 買い物支援	3-① 外出しての買い物は出来なかったが、カタログから好きなものを選び、注文し購入してきた。 ・ 自分で選べることと、達成感を味わって頂いた。



(重度化のケアと看取り)

看取りに対しての意思を尊重、「最期までここで過ごせて良かった」と思って頂けるケアを多職種連携により提供できたかと思えます。

取 組	具体的内容
1. 最期まで諦めないケア	1-① ベッドの環境をより安楽に。 ・ マットレスや寝具の見直し等を行ってきた。 ② 苦痛を感じさせないケアの提供。 ・ 手足の冷感対策と褥瘡をつくらないケアを徹底してきた。 ③ 体に負担がかからない入浴方法や清潔の保持。 ・ その日の体調を看護師に報告、指示を仰ぎながら対応してきた。 ・ 入浴出来ない場合は清拭で保清してきた。
2. 孤独感を感じさせない	2-① 希望により、フロアにベッドを移動し過ごして頂いた。 ② 居室内でも好きな音楽やテレビを観ることで、個人の思いを尊重してきた。 ③ こまめに訪室しスキンシップに心掛けてきた。 ④ 家族との面会時間を多く持てるよう働きかけてきた。

(3) 人材育成

(職員育成)

- ① 新採用職員に対しては、研修やOJTを通じて支援技術の習得を支援してきた。また、各委員会では、専門性を学び課題解決に向け取り組んできた。
- ② 本年度から自主性を高めるため、家長会議をリーダー会議に改めた。構成員は主任看護師・副主任生活相談員・副主任調理師・家長とし、多職種で協力しながら入居者に係る様々なことに対し提案していくことを会議の目的とした。

取 組	具体的内容
1. 職員育成	1-① 介護及び福祉関連資格取得への支援。 ・ 研修費用等の支援やシフトに配慮してきた。 ② 専門的な介護知識や技術を習得。 ・ 施設内外の研修や会議に参加し、現場にフィードバックをしてきた。 ③ チームケアで日常生活を支援。 ・ ICT等を活用、詳細な情報を共有してきた。 ・ サービス計画を基に、臨機応変に対応できるよう支援してきた。
2. 会議、委員会の充実	2-① 各会議の開催。 ・ 職員会議、リーダー会議（生産性向上委員会）、家会議、ケア会議。 ② 各委員会の開催。（7つの専門委員会） ・ 安全対策委員会、身体拘束委員会、感染症対策委員会、事故防止対策委員会、ケア向上（褥瘡防止）対策委員会、環境設備委員会、行事広報委員会。
3. ケアマネジャーとの連携	3-① ケアマネジャーと情報を共有。（アセスメントと意向確認、ケアチェック等） ・ 会議でケアプラン（介護サービス計画）の必要性について説明してきた。（日々変化する中での計画作成は難しい面もある。）



(安全性と危機管理)

① 職員会議や委員会において、専門知識の習得や周知、訓練等を行ってきた。

取 組	具体的内容
1. 安全性と危機管理	1-① 身体拘束ゼロの取り組み。 - 身体拘束の可否や、別方法についての確認等を行ってきた。 - 身体拘束防止委員会：月 1 回開催。 - 職員勉強会：年 2 回実施。 ② 感染症等防止対策（コロナやインフルエンザ等）。 - 出勤時の検温や手指消毒、うがい、マスク着用を徹底してきた。 - 空間除菌器等による施設内の衛生環境を図ってきた。 - 食後のテーブルと共用部の手すり等、消毒の徹底。 - ケア後の手指消毒を徹底してきた。（特に排泄介助や口腔ケア） - 感染対応マニュアルを見直してきた。 - 感染時の対策とゾーニングを徹底してきた。 - 感染発生時に備えた勉強会を実施してきた。（年 4 回） ③ 災害の対応 - 事故安全担当者や設備・環境委員会を中心に、施設内の環境及び福祉用具等の不具合を適宜確認してきた。 - 防災マニュアルを見直してきた。（停電時の対応等） - 緊急時の持ち出し品、非常食等の備品管理及び点検をしてきた。 ④ 避難訓練の実施。 - 火災・水防想定等訓練（月 1 回）、自然災害時の訓練（年 2 回）、原発災害時の訓練（年 1 回）
2. 職員の腰痛予防対策	2-① 移乗介助（ノーリフト）の勉強会を開催。 - 移乗用福祉用具と移乗用ロボットを試用、利用できるものを活用してきた。（肘あげ式車椅子へ移行、移乗用ボードやスライディングシートの整備。） - 移乗介助技術の勉強会を実施。 - リフト浴の活用。 - 腰痛ベルト必着の徹底。

(4) 施設運営

ICTの活用では、当初、操作で慣れない面もあったが、研修やサポート体制により定着が進んだ。結果、業務の効率化と情報共有の迅速化が実現し、支援の質の向上に繋がられた。

取 組	具体的内容
1. 介護報酬の理解	1-① 科学的介護情報システム（LIFE）を活用したPDCAサイクルの促進等。 - 科学的介護推進体制加算等の取得を検討。係る書類の準備をしてきた。 - 会議でフィードバックされた内容をケアに活かしてきた。
2. 入居者を迎える	2-① 適した居室と福祉用具（車いす）等の提供、相談。 - 個々に合ったものについて話し合い、必要なものを整えてきた。 - 生活感のある設えにするために、説明や理解を得てきた。
3. コスト削減の	3-① 電気料金高騰に伴い、今以上の節電対策を周知。

取り組み	・ 照明や家電製品をこまめに消灯。 ・ 室温 夏期間 27～28℃、冬期間 22～23℃。 ・ 湿度 年間通して 45%以上に。(全居室加湿器使用) ・ 床暖房の使い方や調整を周知してきた。
4. ICTの活用	② 消耗品の選定と管理。 ・ 衛生管理と、物を大切にする意識を浸透させるため、“声掛け”の取り組みを行ってきた。次年度も継続していく。 4—① 新しい介護ソフトの導入により、ケース記録はスマホとインカムで入力が可能となり、業務時間の短縮に繋がった。 ② 会議資料は電子配信やパソコン、タブレット等で確認できるようにしてきた。 ③ ICTネットワーク機器を活用することで、職員間で素早い情報の共有が行えた。 ④ ケース記録が簡素化できたことで、入居者への関わりを多く持つことができた。



3. 年間行事の実施

	内 容		内 容	
4月	家族会総会、花見交流会	10月	外食ドライブ	 (外食ドライブ)
5月	花見ドライブ	11月	芋煮会、ミニ運動会	
6月	外食・ドライブ	12月	クリスマス会、餅つき	
7月	七夕会	1月	新年会	
9月	ホーム夏祭り（納涼祭） 敬老会	2月	節分、豆まき	
		3月	ひなまつり	 (ミニ運動会)

1. 家目標と方針について

- (1) 思いもよらない認知症状の進行の速さに戸惑いながらも、その行動や思いを理解しつつ、その方のもつ個性が活かされるよう、情報を共有しながら、穏やかに生活が送れるよう努めてきました。また、日常生活がマンネリ化しないよう、気分転換に散歩に誘ったり、得意な縫物をお願いしたり、タオルたたみのお手伝いをして頂いたり、時には、ゆっくりじっくり昔話を聴いたり、ゆったりとした雰囲気の中で、一人ひとりの思いに寄り添う介護をしてきました。これからも暖かい家を目指して頑張っていきたいと思います。



(2) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	95歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	5人	1人	4.0

③ 認知については、軽度1人、中度～重度6人。

2. 具体的内容

(1)生活	① ストレスを溜め込まない環境づくりとして、歌が好きな方に対しては一緒に歌い、身体を動かす事が好きな方に対しては、輪投げや、足の運動に新聞手繰り寄せなど、工夫を凝らし、ものを提供することで、笑顔も見られ楽しんで運動をして頂けたと思います。また、散歩も日課として行い、気分転換を図ってきた。 ② 居室で過ごす時間が長い方については、孤立感を味わうことがないように、テレビやラジカセを準備するほか、離床しフロアで過ごす時間を設けたことにより、他の入居者とコミュニケーションを図る事ができました。また、季節感を楽しめるようフロアの空間に飾り物をする事で、和める家づくりにしてきました。 ③ 長年培ってきた趣味や教養を活かし、お裁縫や花壇づくり、菜園で土いじりをしてきました。作業中は昔話に花が咲き楽しそうにしていました。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 150人、最多者 27回	 
(2)食事	自から食べることが困難で、介助しても口を開けてくれなかった方が、好きなものに対しては自然と手が伸び、その食べる行為を見せてくれたことが、とても嬉しく思いました。このことから“食べる”ことの大切さを改めて学びました。これからも、食事形態の見直しをはじめ、分食や嗜好を確認するなど、少しでも	

	満足感を味わってもらえるよう多職種と連携し介護に努めたいと思います。 ※ 食事形態状況 : 軟食5人、ミキサー食1人（ゼリー食1人タのみ）、 経管栄養者1人 ※ 食事介助者 : 全一部介助1人、自立5人
(3)入浴	① 入浴に抵抗が見られる方の対応としては、声掛けに工夫したり、気を紛らわせながら誘導したり、音楽の好きな方には音楽を聴きながら入浴して頂いたり、無理強いすることなく、試行錯誤しながら入浴の環境づくりに努めてきました。 ② 在宅酸素をしている方の入浴介助は、医務と連携を密に、細心の注意を図りながら、家内の個浴に2人介助で安全に最後まで入浴して頂けました。 ※ 年間入浴者数（延べ回数） : 個別浴 286 回、機械浴 323 回 (2 人対応での個別浴者 1 人)
(4)排泄	排泄チェック表を活用しながら、個々の状態に合った環境を整え、また、医務と連携しながら健康状態の把握に努めてきました。 ※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者 5 人（一人当たり 1 日平均 8 回～9 回） オムツ交換者 2 人（一人当たり 1 日平均 5 回～6 回） (ベッド上での交換者 2 人の内、トイレ介助を 2 人対応で行う方 1 人)
(5)認知症ケア	① 否定的にならないようにと思っても、つい感情のコントロールが乱れることもありました。また、ケアで悩んだ時は、些細なことも申し送り欄に記入し、話し合いを持つなど職員間で情報を共有し、前向きにケアに取り組んできました。 ② 一人ひとりの状態は其々違いますが、表情や言動から判断し、柔軟に対応できたと思います。 ③ コミュニケーションを図り、若い頃の話や生活歴を知ること、ケアに繋げることができた。徐々にですが信頼関係もできてきたかなと思います。

3. その他の取り組み

- 昔を思い出せるよう、園芸や菜園を共に楽しみ、キュウリやナス、ミニトマトを収穫、漬物や炒めものを一緒に作り、楽しいひと時を過ごせたかなと思います。



- 夏には一緒に吹き流しを作成し見事優勝。トロフィーを獲得、副賞も頂きました。副賞で美味しい手巻き寿司を頂くことができました。

1. 家目標と方針について

- (1) 家庭的で“ほっとできる家”づくりを目指し取り組んできた1年でした。一人ひとりの時間に合ったケアの提供については、概ね出来ていたように思います。また、居室で過ごされる方が殆どですが、孤独感を感じさせないようコミュニケーションを取ることに心掛けてきました。
- (2) 小さな変化にも気付き、体調管理や事故防止に努める事ができた。
申し送り等で報連相を徹底し、周知することで上手く繋ぐことができていたと思います。ただ、分かり易く口頭での伝達が少なかったと思います。次年度は課題に向き合い口頭での情報共有も徹底していきたい。
- (3) 居室で過ごされている方でも楽しめるよう、好きな音楽を聴いたり、テレビを観たり、口ずさんだりできる環境を提供することで、少しでも“ホッと”して頂けたかなと思います。
- (4) 面会時、家族の方に近況をお知らせしていましたが、もう少し日常生活の様子や誕生会の写真を見て頂ければ良かったかなと思いました。
- (5) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	94歳	平均年齢	87歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	4人	2人	4.1

③ 認知症については、軽度3人、中度～重度4人。

2. 具体的内容

(1)生活	① 感染症等に配慮しながらも、施設の行事に参加してきた。(夏祭りやミニ運動会など季節折々のイベントを楽しむことができた。) ② 会話や意思疎通ができる方が多く、日常的に笑顔溢れる時間を過ごせた。 ③ ベッド環境(クッションやマットレス、ムートン等)を、個々の状態に合わせ選定、使用することで褥瘡や皮膚トラブルの防止に繋がった。また、離床時間も個々の体力等に合わせ回数を増やすことができていた。 ④ 逆流性食道炎の対応として、食後、マッサージ機を利用、腹部を伸ばすような姿勢で休んで頂くことで、消化を促し嘔吐の軽減に繋がってきた。 ⑤ 体位交換や移乗介助の際、福祉用具(スライドボードやスライディングシート)を使用することで、入居者も職員も身体の負担軽減に繋がりが良かった。今後も様々な福祉用具等を有効に取り入れていきたい。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 113 人、最多者 14 回
-------	--



(2) 食事	① 個々の嚥下状態、咀嚼に合わせ食事形態を見直すことで、美味しく食べて頂くことができた。また、姿勢や座位保持を徹底することで、安心して食することもできた。 ② 個々に合った自助具や滑り止めを選定、食べ易い環境をつくってきた。 ③ 食前体操（パタカラ）にも力を入れ、飲み込みや咀嚼がスムーズに行えるよう促してきた。 ④ 嚥下、咀嚼を促すため、アイスマッサージを毎食前に行うことで、スムーズに食事を摂取する事が出来るようになった。 ⑤ 歯科衛生士の指導もあり、口腔ケアの遣り方を見直すことで、嚥下機能の維持だけでなく口腔内の把握にも繋がった。それに伴って個々に合った用具の選定も行うことができた。 ※ 食事形態状況 : 軟食2人、キザミ食3人、ペースト食1人、ゼリー食2人 ※ 食事介助者 : 全介助1人、一部介助3人
(3) 入浴	① 入浴が好きな方ばかりなので、お気に入りの入浴剤を使用し、音楽を聴きながら入浴を楽しんで頂くことができた。 ② 皮膚トラブル（内出血）にならないよう常に慎重にケアを行ってきた。また、状況により2人で対応することで、安全に入浴を行うことができた。 ③ 特浴（機械浴）対象となる方でも、2人対応にすることで個浴での入浴が可能となった。また、個浴は家庭的な雰囲気味わえ、「良い湯だな」「体の芯まで温まる」と、笑顔で応えてくれます。今後も継続して行きたいと思います。 ④ 特浴の際、リフトを使用。また、移乗時にスライドボードやスライディングシートも使用することで、安心して入浴に繋げることができた。今後も更に力を入れて行きたい。 ※ 年間入浴者数（延べ回数） : 個別浴 507 回、機械浴 253 回
(4) 排泄	① 尿量と皮膚の状態に合ったパットの選定や、個々に合った時間帯で排泄交換を行い、皮膚トラブルの防止や褥瘡予防に力を入れてきた。 ② プライバシーに配慮、安心して排泄できる環境を整えてきた。 ③ トイレ介助も、本人が行きたい時間に誘導してきた。 ④ 皮膚トラブルが起きた時は、パット等の交換時間等も考慮しながら柔軟に対応してきた。また、再発しないよう注意点を周知してきました。更に、移乗方法も検討し、変えていく事で内出血や裂傷も防ぐことができた。 ※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者1人、オムツ交換者5人、オムツからボクサーパンツ移行1人
(5) 認知症ケア	① 認知症ケアについては、言動の意味を理解し、目線を合わせコミュニケーションを取りながら声掛けができた。また、否定的な内容で正すような声掛けはしないようにしてきた。 ② 一人ひとりに向き合う時間を、もう少し多く取れば何を求めているのか、何をしたいのかを、より知ることができたと思う。 ③ 全体的には、なじみのある関係が築け、落ち着いた中で過ごすことができていた。

1. 家目標と方針について

(1) 入居者一人ひとりに寄り添い、心の声に耳を傾けることを目標に、職員が一致団結して取り組んできた。また、性格や好み、生活スタイルに応じたケアを行い、“思い”を出来る限り叶えることで、満足感のある生活や笑顔を多く引き出すことができた。

(2) 「おはよう」「おやすみ」と云ったあたりまえの挨拶や、何気ない声かけ、会話通して信頼関係を深めてきた。ただ、自ら意思表示ができない方に対しては、何をして欲しいのか、何が苦痛なのかを見極めることの難しさを痛感した。

私達は、入居者の表情や小さな変化にも気付ける目を養いながら、居心地良く、関わりで安心でき、気持ちが温かくなれるようなケアを提供し、家族のような関係で生活を共にすることができるよう努めていきたい。

(3) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	93歳	平均年齢	89歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	2人	4.0

③ 認知症については、認知なし1人、軽度1人、中度～重度5人。

2. 具体的内容

(1)生活	① 入居者の生活スタイルに応じ、居室やフロア間で自由に過ごせる環境（炬燵やソファの活用、個人スペースでの居場所）づくりに努めてきた。 ② 観葉植物や季節の花（鉢植え、生花）を飾り、四季を感じられるよう設えてきた。更に、中庭で花を、畑で野菜を育て日常の楽しみをつくってきた。 ③ 塗り絵や間違い探しの本を使用、ユニット内で楽しんだ。時には、職員と一緒に民謡を歌い賑やかな時間を過ごすことができた。 ④ フロアと居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策をはじめ介助前後の手洗いや細目な換気を行い、ユニット内の感染予防に取り組んだ。また、体調不良者が出た際、看護師の指導の下、適切な対応を行い状態悪化防止にも努めてきた。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 106人、最多者 23回
(2)食事	① 咀嚼の変化や嚥下機能低下者に対し、看護師や厨房と連携を取りながら、摂取状況に応じた食事形態や補助食品等で補ってきた。また、提供内容を定期的に見直し、嗜好に応じながら、美味しく安全な食事提供に繋げてきた。 ② 個々の時間に合わせ食事の提供や食器を選定。また、福祉用具等を活用し、自力で摂取できる喜びを味わえるよう努めてきた。 ③ 「なぜ食べたくないのか」その背景を探り、幾度となく対応を重ねてきたことで、徐々に摂取量が増えたり、固形物が食べられるようになった方もいました。また、「美味しい」と食べてくれた時はとても嬉しい気持ちになった。 ④ 歯科医師等による口腔衛生指導の下、自歯の維持や衛生管理に努めた。更に、口腔体操を職員が率先して行うことで、唾液の分泌や機能低下予防にも繋げてきた。 ※ 食事形態状況 : 常食2人、超キザミ食3人、ゼリー食1人、 疾病食1人、(経管栄養2人(※経口摂取困難時)) ※ 食事介助者 : 全介助2人、一部介助2人



(3)入浴	① 個々に合った入浴剤やボディクリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができた。また、入浴時に発見した異常についても、直ぐに看護師に報告し申し送りに繋げてきた。 ② 「入りたくない」と訴えのある方に対しては、声掛けの工夫や本人の入りたくなるタイミングで入浴（午前浴）を提供。また、温かいお湯につかり“気持ちいい”“さっぱりした”と感じられるよう、湯温の調整や羞恥心にも配慮しながら提供にあたってきた。 ③ 皮下出血予防の保護のため、リフトやスライドボードを使用し、抱えない介護に取り組んできた。結果、無理なく安全に介助する事ができ、入居者と職員双方の負担軽減に繋がった。 ④ 全身状態の観察（浮腫の有無と体重の増減を把握）を行い、看護師への確に報告するよう努めてきた。 ※ 年間入浴者数（延べ回数）： 個別浴 320 回、機械浴 446 回
(4)排泄	① 申し送り時は、隠語（施設独自に決めたもの）を使用。また、排泄時はカーテンや扉を閉め羞恥心に配慮し対応してきた。 ② できる限りトイレでの排泄を支援し、爽快感と満足感が持てるよう努めてきた。筋力低下等で、ベッド上での対応に変更した方でも、負担が少なく、スムーズな排泄が継続できる対応をしてきた。 ③ 排泄チェック表を活用、個々に合った時間での排泄交換や、尿量に応じたパットの選定ができた。 ④ 排便による肛門付近の皮膚トラブルに悩み、対応に苦慮した時もありました。しかし、看護師の協力のもと、下剤の調整や申し送りを徹底し、こまめな排泄交換と洗浄で清潔保持に努めてきました。それでも一時でも苦痛を与えてしまったことが悔やまれる。今回の経験をこれからのケアに活かして行きたいと思う。 ※ 排泄介助内訳： トイレ介助者5人、オムツ交換者2人 オムツ使用からトイレ介助へ移行人数1人
(5)認知症ケア	① 言動に対し否定せず、受け止めることを意識して取り組んできた。時には言葉を優しく言い換えたり、表現でコンタクトを取ってきた。 ② 自己決定と現有機能を活用しながら、入居者の意思を尊重してきた。“して欲しいこと”“して欲しくないこと”を考えケアを行ってきた。 ③ 関わりの中で理解を深め、入居者に対して一番の理解者であり、代弁者でありたいと皆が思っていた。今後、この思いを大切に、お互いに支え合いながら多職種間で協働して行きたい。



1. 家目標について

好きなことや、好きな物を食べるなど、選べるような環境づくりに心掛けてきた。また、率先して新しいことにチャレンジ（ノーリフトケア）してきた。



2. 具体的な方針について

- (1) 月に一度、ユニット内で行事を開催してきた。(毎月の家会議時に予定を確認)
- (2) 補助具を使用し、抱え上げない・擦らない介護に努めてきた。(補助具の使用方法を習得し、また、率先して現場に活かすよう心掛けてきた。)
- (3) やってみたいことが叶うよう、具体案をケア会議時に提起するよう努めてきた。
- (4) 一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう、環境づくりに配慮してきた。
- (5) 個別の設えについては、在宅で過ごしていた環境に近づけられるよう努めてきた。
- (6) 入居者状況(R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	97歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	3人	1人	3.7

③ 認知症について、軽度1人、中度～重度6人。

3. 生活面について

(1)生活	① 生活の中で、花の手入れや洗濯物畳み、配膳などの役割を担って頂くことで、遣り甲斐や楽しみを感じて貰えるよう努めてきた。 ② 挨拶に始まり挨拶に終わる心掛けと、世間話を楽しめるような顔なじみの関係を築けるよう努めてきた。 ③ 個々に合ったレクリエーション（機能訓練）を行うよう努めてきた。 (体操、外気浴、ボール遊び、塗り絵や計算ドリル、カラオケ等) ④ 定期的に換気。また、ケア後は入居者と共に手洗いや消毒をしっかりと行うなど感染予防に努めてきた。 ⑤ 個々に合った起床や就寝介助等、その人らしい暮らしをサポートしてきた。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 215 人、面会最多者 37 回
(2)食事	① 食事量や体重増減等を把握。なるべく口から食べられるよう多職種と連携し、追加メニューや栄養補助食品など追加してきた。 ② 嚥下状態低下や病状進行等に伴い、食事形態の見直しに努めてきた。 ③ 安全な姿勢で食べられるよう、椅子に移る際の環境づくりに努めてきた。 ④ 起床時間に合わせ食事を提供。起床できるような声掛けにも努めてきた。



	⑤ 機能低下や拘縮予防のため、離床して食事が摂るよう努めてきた。 ⑥ パタカラ体操やマッサージを継続、口腔機能の維持に努めてきた。 ⑦ 入居者同士の相性や、感染予防に留意しながら席の配置に努めた。 ※ 食事形態状況 : 軟食 4 人、キザミ食 2 人、キザミ食・軟食ハーフ 1 人 ※ 食事介助者 : 全介助 1 人、一部介助 2 人
(3)入浴	① 季節毎、菖蒲湯やゆず湯を楽しめるよう提供してきた。また、個々に合った入浴剤や保湿剤を使用。安全な入浴方法を見出すことも出来た。 ② 立位保持や拘縮が強く姿勢保持が困難な方でも、安全に個浴や特浴が出来るよう介助方法等を常に検討してきた。 ③ その日の状態変化に合わせ、柔軟に入浴を変更することが出来た。 (入浴拒否を訴える方に対しては、耳を傾け、声掛けする職員を変え、また、入浴時間をずらすなど、臨機応変に対応してきた。) ④ 終末期であっても、清拭や手浴、短時間の入浴等、状態に応じ臨機応変に対応することが出来た。また、全身の皮膚の状態観察だけでなく、爽快感を味わってもらえるよう努めてきた。 ⑤ 全身観察と衛生介助を行うことで、皮膚の状態や浮腫みなど、小さな変化にも気付き、必要な処置があれば医務と協力しケアにあたることが出来た。 ※ 年間入浴者数(延べ回数) : 個別浴 352 回、機械浴 394 回
(4)排泄	① 尿量チェック表を活用、個々に合ったパット選定や、適した排泄交換時間などを見出してきた。(失禁や漏れがあった時は、不快な思いをさせないように、直ぐに改善策を図り、同じ失敗を繰り返さないよう支援してきた。) ② 医務と連携し、個人に合った排泄環境を整えてきた。(なるべくトイレでの排泄を促し、スッキリ感を味わえるよう努めてきた。) ③ 皮膚トラブルを防ぐため、陰部洗浄や保湿に努めてきた。 ④ 羞恥心は誰しもが持つ感情であることを忘れず、介助方法や申し送り方に注意してきた。(自分に置き換えて考えられるようなケアに努めてきた。)
(5)認知症ケア	① 入居者と顔なじみになり、“この人がいれば安心できる”“信頼できる”と思ってもらえるような関係を目指してきた。 ② 日々の変動を把握するためにも、ユニット内での情報共有や意見交換を密にすることに努めてきた。 ③ 親しき中にも礼儀あり。言葉遣いや行動には常に気を付け、相手を敬い優しさをもって支援することに努めてきた。 ④ 言葉以外の“笑顔”や“ふれあい”、“アイコンタクト”などでコミュニケーションを図りながらケアを行うことが出来た。 ⑤ 昔の遊びや聴きなれた音楽、畑づくり、行事等を通し、昔やっていたことを思い出しながら、懐かしむことが出来たと思います。 ⑥ 職員がアイデアを持ち寄り、同じ生活の中にも気分転換や刺激を与えられるような活動が出来た。(外気浴、ジュース作り、ドライブ等)

4. その他の取り組み

- ① 誕生会の開催。(本人希望の誕生日ケーキの提供、カラオケ、プレゼント贈呈など。)事前に家族にも意向や内容をお知らせしてきた。
- ② アクティビティの実施。(体操、歌を唄う、塗り絵、カレンダー作りなど。)
- ③ 家料理の実施。(季節に合った簡単なものを入居者と一緒に作ってきた。)

1. 家目標と方針について

入居者のペースに合わせ、“気持ち”に寄り添った介護を志してきました。また、生活に楽しみが持てるよう、“して欲しい”ことが分かる職員を目指してきました。

- (1) 生活リハビリを兼ね、排泄や入浴、食事等の日常生活動作において、自分で出来る事は出来る範囲内でして頂いた。

(今年度入居された方で、最初は立つことも難しかったが、「トイレでスッキリ排泄したい」と云う思いがあるため、毎日、2人介助で抱え、便座に座って頂いているうちに、自から掴まり立ちが出来るようになりました。現在は、ズボンの上げ下げの介助だけで便座に座る事が出来たことは、皆の喜びになっています。)

- (2) 行事やレクリエーション等に参加できるよう支援してきた。

(“散歩に行きたい”“テレビが観たい”など、今日は何をしたのか、本人の意思を聞き取り、叶えられるよう取り組んできました。また、散歩に行く方には、スタンプカードを作り、散歩先でスタンプを押し帰ってくると云った日課ができた。また、「明日も散歩に行きたい」とのモチベーションに繋がるよう、今後も続けていきたいと考えています。)



- (3) 部屋で過ごす時間が多い方に対しては、入居される前の部屋と同じような設えを工夫することで、少しでも寛げる雰囲気味わって頂いた。ベッド上で多く過ごす方に対しては、寂しい思いをしないよう馴染みの音楽を聴いたり、外の景色を眺めたり、フロアで一緒に過ごす時間をつくってきた。



- (4) 入居者の情報を多職種と共有し、ケアに繋がれるようにしてきた。また、ケアの中では「分からない」「出来ない」「知らない」と言うことがないようにしてきた。

(職員同士で意見が噛み合わない時もあり、同じようなケアを行うことの難しさを改めて感じました。次年度は職員のコミュニケーションをより一層深め、一致団結したチームづくりを行っていききたい。)

- (5) 家入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者と年齢

入居者数	8人	最高齢者	99歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	—	4人	4人	4.5

- ③ 認知症については、軽度3人、中度1人、重度4人。

2. 具体的内容

(1)生活	① 起床時間や就寝時間等、その人に合ったタイミングで過ごせるよう心掛けてきた。 ② 活動時間と休む時間にメリハリをつけ過ごしてもらうようにしてきた。 ③ 出来ることや楽しめることを把握し、編み物や塗り絵などを提供できるようにしてきた。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 60 人、最多者 12 回
(2)食事	その日の体調で食べられる時と食べられない時があるため、状況をしっかり把握し、無理強いせず、食べられるものを食べられるだけ摂ることを目標に介助してきた。 - 水分摂取が上手く行かない時は、選んだ飲み物だけでなく、摂取する姿勢やトロミのつけ具合等、専門職の意見を参考にしてきた。 - しっかり目を覚ましてから、食事を提供することに努めてきた。 - 常に多職種と報連相をとり、情報を共有、その都度見直しもしてきた。 - 誕生日や家料理提供時には食べたいものを聞き、厨房の協力を得ながらなるべく願いを叶えてあげられるようにしてきた。 ※ 食事形態状況 : 軟食 3 人、キザミ食 3 人、経管栄養 2 人 ※ 食事介助者 : 全介助 1 人、一部介助 2 人
(3)入浴	① その日の体調に応じ、柔軟に入浴方法を変更することができた。また、入浴は、心が安らぐ時間にしたいことから、なるべく入浴時間を制限せず、気持ちよく入浴して頂くよう努めてきた。 ② 内出血が出来易い方のケアに対しては不十分な所もあった。何故、内出血が出来たのか、今後、しっかりと対策まで踏まえケアを行う。 ※ 年間入浴者数(延べ回数) : 個別浴 350 回、機械浴 400 回
(4)排泄	① トイレで排泄したいとの思いを叶えてあげられるよう努めてきた。 ② 個々に合ったパットの選定を行ってきたが、なかなかパターンが掴めず難しさを感じることもあった。 ③ 排便コントロールは難しいため、看護師と相談しながら行ってきた。 ※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者 3 人、オムツ交換者 3 人、 2 人介助 1 人 (オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数 1 人)
(5)認知症ケア	認知症だからしょうがないと諦めるのではなく、認知症状も含めその人だと受け入れ、毎日のケアを通し、生活に寄り添った関係を築けるよう努めてきた。 ※ 認知症の症状には幻視や幻聴が見える方もいる。不穏や不安な時に傍にいて、“安心して過ごせるよう”優しい声掛けと支援に努めてきた。

1. 家目標について

楽しい食事や、温かいお風呂、居心地の良い場所、顔なじみの方との会話などを掲げ、その時、その時を大切にしながら共に過ごしてきました。

2. 具体的な計画について

- (1) 常に“敬い”や“思いやる心”を持って接してきました。また、負担の少ない介護（福祉用具の使用や排泄時間の見直し、パットの変更等）にも取り組んできたことで、入居者から「居てくれるだけで安心する」との声や笑顔を見て、職員のモチベーションに繋がっていたことも事実です。
- (2) 生活リズムに応じ、居室やフロアで自由に過ごせるような環境をつくることで、ゆったりと寛げる“場”が提供できたと思います。
- (3) 面会では多く家族の方に足を運んで頂き、大切な時間を過ごして頂けたことと思います。また、面会時に近況を報告することで、話が弾み信頼関係も築くことが出来たと思います。
- (4) 変化に気付ける目と耳を養いながら、自ら情報を収集、共有し、意見を出し合いながら、常に協力する姿勢を保ち支援に努めてきました。
- (5) 寝具も季節や室内温度等に応じ、適宜、対応してきました。
- (6) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	8人	最高齢者	104歳	平均年齢	90.3歳
------	----	------	------	------	-------

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	5人	2人	4.1

③ 認知症については、軽度2人、中度～重度6人。

3. 具体的内容

(1)生活	① 個々の好みや性格を理解し、また、その“思い”を汲み取り、自己決定と現有能力が活かされるようケアに努めてきました。 ② 申し送り等の情報をスムーズに共有できるよう、分かり易く簡潔に書くよう心掛けてきたつもりですが、説明が長くなり、上手く伝わらないこともありました。 ③ アクシデントやヒヤリハット、皮下出血等については、速やかに報告や記録が書けた。しかし、慣れにより危険予知が薄れてしまうこともありました。 ④ 面会時に、近況報告や誕生会の連絡等を行い、家族との繋がりを大切にしてきました。また、厨房の協力により、本人希望の誕生日ケーキや、家料理、行事食等を提供することで楽しい思い出が出来ました。 ⑤ 季節に応じ、ゆったりと快適に過ごせる設えや環境づくりを適宜行えました。 ⑥ 穏やかな気持ちでケアに心掛けてきましたが、つい余裕が無くなり早口や強い口調になってしまった事があります。反省すべきことでもありました。 ⑦ ユニット内の感染予防をはじめ、フロアや居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策にも努めてきました。 ⑧ 本人の要望や体力を考慮し、ベッド上で食事や休める時間等を確保してきました。更に、クッション等も使用し、車椅子上でも安楽な体位になれるよう工夫してきました。 ※ 面会状況 : 面会延べ人数 139人、最多者 23回
(2)食事	① 「食べたい」と感じられるように、目の前で配膳、献立の説明。更に、本人に伺いながら配膳をしてきました。 ② 食事を楽しめるよう、メニューに合った食器の選定、盛り付けの工夫、目の前での切り分けを行ってきました。 ③ 安全に食事が摂れるよう、本人に合ったテーブルの調整、食べ易い体位等で摂れるようにしてきた。今後も、自分で食べられる喜びを感じて頂けるよう支援していきたい。 ④ ランチョンマット等を使用することで、見た目にも食欲をそそるよう改善に努めてきました。 ⑤ 義歯の有無による咀嚼の変化や、嚥下機能の低下に伴う摂取状況を、速やかに厨房に報告し食事形態の変更や、ケア会議にも諮ってきました。



	⑥ ティータイム時の飲み物は好きなものを提供。また、「飲み物は冷たい方が好きか、温かい方が好きか、甘い物はどんなものが好きか」など、会話する機会も増えてきました。 ⑦ 毎食後の口腔ケアを実施。口腔内の清潔保持と状態観察に努めてきました。また、歯科医師による衛生指導を受け、これまで難しいと感じていた方のケア方法を学ぶことができたことは大きかった。これにより用具等も見直すことが出来ました。 ※ 食事形態状況 : 軟食6人、超キザミ食1人、ゼリー食1人 ※ 食事介助者 : 全介助1人、一部介助1人
(3)入浴	① 着替えを一緒に選ぶことで、これから入浴する雰囲気づくりができた。また、工夫した声掛けにより入浴拒否が少なくなりました。 ② 好みの入浴時間や湯加減等を確認、更にカーテンや仕切りを使うことで羞恥心にも配慮してきた。 ③ 体調変化時は、介護用品や入浴形態を見直し、また、状況により2人対応の介助で双方の負担軽減に繋がった。 ④ 個々に合った入浴剤やボディクリーム等を使用し、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができました。また、入浴時に異常を発見した時も、直ぐに看護師に報告すると共に、申し送りに繋げてきました。 ⑤ 菖蒲湯、ゆず湯を提供。季節やお風呂を楽しめる工夫を行ってきました。 ⑥ 冬季は、室温調整や洗身時に足浴を行うことで、ヒートショックを防いできました。 ※ 年間入浴者数(延べ回数) : 個別浴 511回、機械浴 267回
(4)排泄	① 申し送り時は隠語を使用。排泄時にはカーテンや扉を閉め羞恥心に配慮してきました。 ② 排泄チェック表を活用し、個々に合ったトイレ誘導時間や、尿量に応じたパットの選定が出来た。更に、介助内容を記した用紙等を随時更新、誰が対応しても分かり易いよう工夫に努めてきました。 ③ 看護師の協力のもと、食物繊維を用いたりすることで、排便コントロールができたり、立位が困難な方に対しても、可能な限り一日一回は便座に座って頂くことで、爽快感を味わって頂けたと思います。 ④ 漏れ等が生じた場合、漏れた原因を調べ、見守り時間帯やパットの選定を見直してきました。 ⑤ 尿量に応じたパット選定。また、夜間帯の安眠確保に取り組んでいます。 ※ 排泄介助内訳 : トイレ 一部介助者4人(1日平均8回) ベッド上 全介助者4人(1日平均4~5回)
(5)認知症ケア	① 要望や行動に対し否定をせず、言葉の言い換えで対応してきました。 ② 毎回同じ言葉が聞かれると「またか…」と聴き上手になれない時もありました。また、対応に不安を感じた事は、職員間で常に話し合い対応してきました。 ③ 会話をする時は、視線を合わせ、笑顔を引き出せるよう努めてきました。また、孤立しないよう声掛けもしてきました。 ④ 家料理や作品作りを協働で行い、関係性を深めてきました。 ⑤ 一緒にテレビを観たり、お茶をしたり、折り紙や塗り絵をするなど、生活スタイルに合わせ寄り添うことが出来たと思います。



4. その他の取り組み

- ・ 誕生会は、厨房の手作りケーキや家料理で大変喜んで頂けました。(誕生会の進め方は、家族と検討してきました。)
- ・ 家の花壇で野菜作りをしてきました。(じゃがいもやかぼちゃなどは、計画的に出来ませんでした。次年度は実施したいと思います。)
- ・ 昼食前の口腔体操「あいうべ〜」を、早・遅番が協力して行っていました。